平成２１年度「大学教育・学生支援推進事業」
【テーマＢ】学生支援推進プログラム

# モバイルe-learningによるキャリア教育の支援

千里金蘭大学
学生支援センター
キャリアサポート課

## １．はじめに

本学では、平成 21 年度に文部科学省の大学教育・学生支援推進事業による補助を受け、学生支援センターで行っているキャリア教育を充実させる目的でモバイル e-learning を導入いたしました。モバイル e-learning により、基礎学力を向上させるため平成 21 年度 11 月より運用を開始しました。

モバイル e-learning に使用している学習支援システム C-Learning に、技能問題を登録し、携帯機器を使用して「いつでもどこでも」学習が可能な環境です。学生の実施状況については，学生支援センターにおいて学習状況が確認できる為、メールなどでサポートを行うことが可能です。

また、モバイル e-learning だけではなく、座学による講義を行う事で学習内容をより深く理解することが可能となります。

ここでは、主に平成 22 年度におけるモバイル e-learning を利用した学習についてのコンテンツや登録状況について報告いたします。

## ２．学習コンテンツについて

学習コンテンツは、主に，中学校卒業～高校 1、2 年生レベルの内容であり、言語系および非言語系の 2 つに分類されています。問題の内容は、非言語系については基本的な計算能力の問題および論理的な問題、言語系については、語彙能力および慣用句の問題です。

これらの問題は、就職時の筆記試験において頻出する SPI 試験と共通する部分が多いため、就職における筆記試験にも効果が上がります。学習 1 回あたりを 5 問と設定し、10 分程度で解答できるように設定しています。これは、短時間で、「いつでも、どこでも」学習することを目的としているためです。

出題に関してはランダムで出題されるため、パターンを覚えるといったこともありません。問題は、毎月、新規問題を 20 問～40 問を追加しており、約 1 年で 415 問作成しています。

さらに、今年度からは日本語検定の問題も追加し、さらなる語彙力の強化を図

りました。表 1 に、コンテンツの出題範囲を示します。

表 1　コンテンツにおける出題範囲

| 分　類 | 主な出題内容 | 出題数 |
|---|---|---|
| 言語系 | 同意語，反意語，ことわざ，熟語、敬語，語の意味，慣用句，四字熟語，故事成語，文法，類義語，対義語，2 語の関係、漢字の組み立て | 170 問 |
| 非言語系 | 濃度、ハジキ算（速さ，時間，距離）、推理＆論理、換算、時間の計算、平均、年齢算、旅人算 | 130 問 |
| 日本語検定 | 過去に検定試験に出題された問題 | 120 問 |

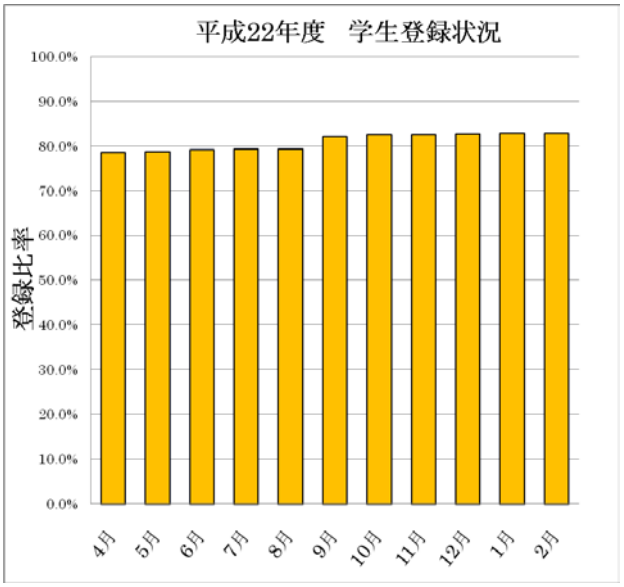
また、図 1 に、モバイル機器での問題および解説画面を示します。

図 1　問題および解答解説画面

## ３．登録状況および結果

初年度（平成 21 年度）は、では学生の登録を平成 21 年 11 月に一斉に行っていましたが、未登録の学生に関しては3月 30 日に実施する履修登録および一斉試験において再度登録を促しました。C-Learning では学年の更新などの作業は学生個人でさせることで利用状況の再確認及び必要性を喚起することができます。

平成 22 年度新入生に関しては、4 月 5 日に実施のオリエンテーションにて、登録および使用方法の説明を行いました。諸事情にて参加できなかった学生については、個別に登録の説明を行うことでほとんどの学生が登録することが出来ました。図 2 に、2011 年 2 月末現在の学生の登録状況を示します。



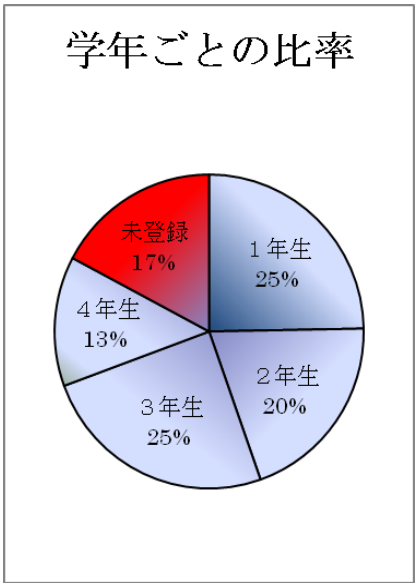




図２　C-Learning への全体登録状況及び各学年の登録状況

## ４．学習結果

学生の学習の取組回数に差はみられますが、4 月から開始して複数回解答を行った学生は正解率が上がっています。多くの学生は 1 回目の解答は 100%に行きませんが複数回解答すると多くの学生は 100%近い正解率になることができました。

図 3 に、複数回実施した学生の正解率の顕著な例を示します。

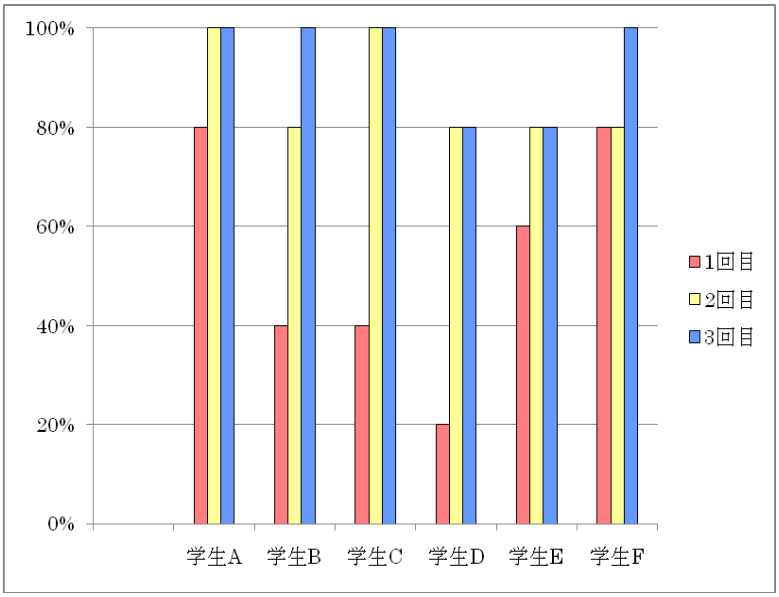



図３　複数回実施した学生の正解率

## ５． 外部試験による習熟度の判定

C-Learning で学習した内容を外部試験による試験で習熟度の判定を行っています。今年度は平成22年3月末に全学生対象に試験を実施いたしました。この試験では，707名が受験し、試験結果に関しては、平成 21 年に実施した結果と比較すると、若干、基礎学力の向上が見られました。その結果を、図4に示します。

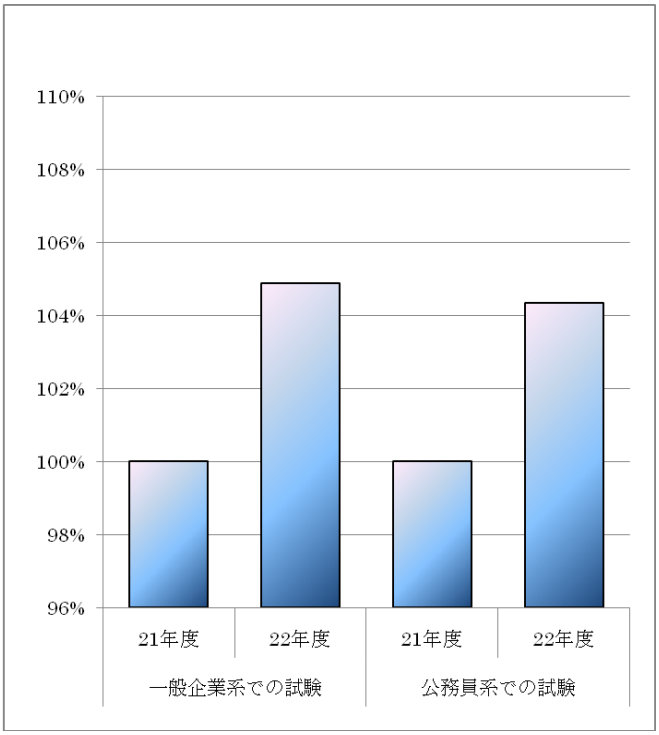



図 4　基礎学力向上の度合い

## ６．おわりに

本学のキャリア教育の概要ならびに、C-Learning を利用した学習状況について報告いたしました。

モバイルｅ-learning については、まだ運用を行ってから期間が短いため、十分な成果をあげていませんが、今後も継続することで使用するコンテンツが増加するため、基礎学力の向上が期待できます。今後、1000 問以上の問題を作成し、これらを最大限に活用することで、次年度以降もキャリア教育を支援していく予定です。